

認知症の方ができる限り住み慣れた地域で暮らす上で 重要と考える取組の方向性

令和6年5月8日

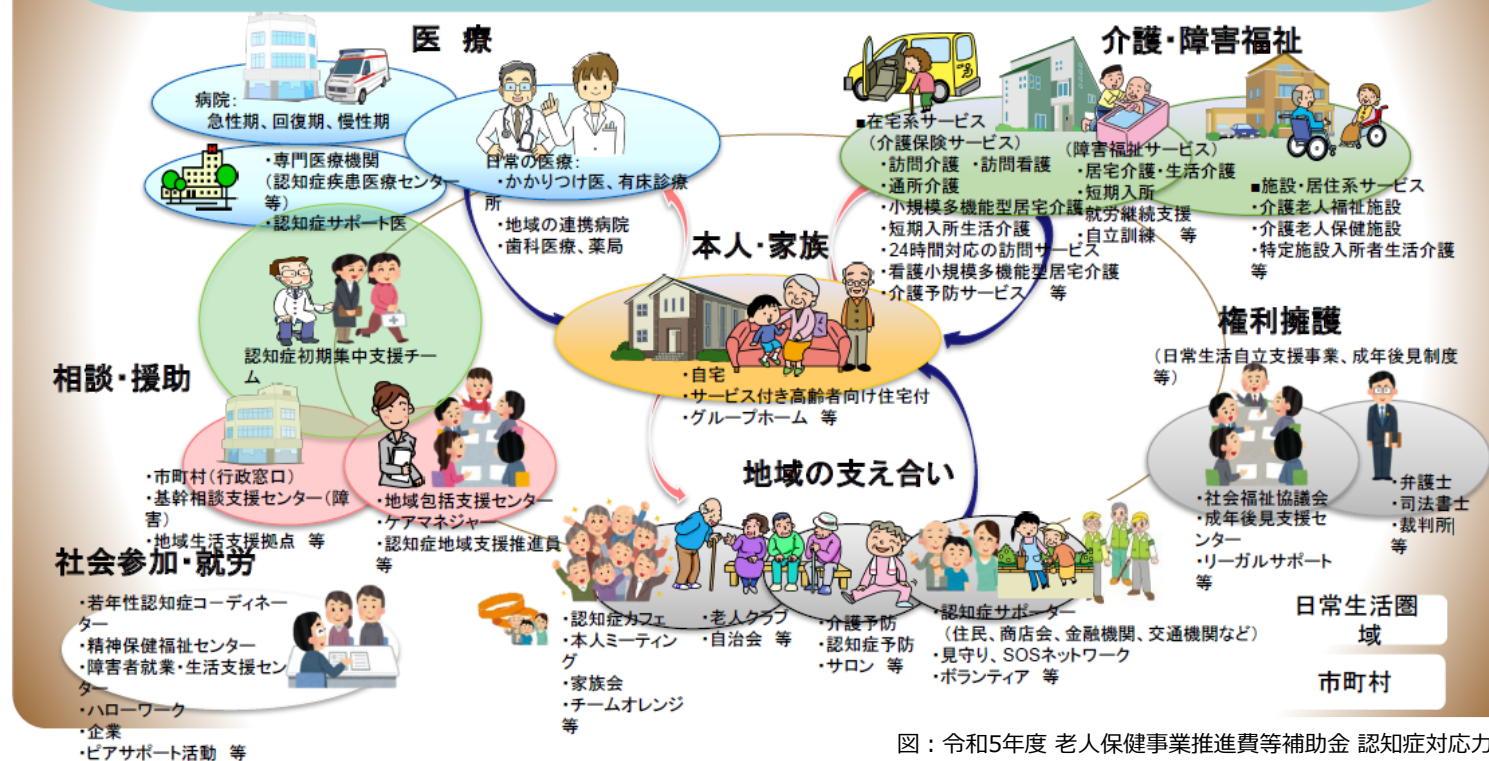
公益社団法人 日本薬剤師会

理事 有澤 賢二

認知症の方と薬局・薬剤師の関わり

薬局・薬剤師は、生活の場である地域において、早期発見や地域の医療や相談・支援機関のつなぎなど（気づき・つなぎ）、地域の保健・医療・介護・福祉の関係者と連携し、認知症の方を支える地域の一員としての役割を担うとともに、薬の専門家として、認知症の方が安全・適正に薬物治療が受けられるよう、適切なアセスメントを行い、認知症の方を支えています。

- 高齢化の進展に伴い、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症の人は約700万人（65歳以上高齢者の約5人に1人）となる見込み
- 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要
- 2025年に向け、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す



図：令和5年度 老人保健事業推進費等補助金 認知症対応力向上研修テキストより

認知症の方を支えるために重要な取組①

地域の多職種の職能の有機的な連携の推進

- 薬局は、地域住民が日常的に利用する場所として、気づき、つなぎ、見守る、といった機能を担うことが可能な場所であり、住民、地域の多職種と日常的なコミュニケーションをとれる場所。
- 薬剤師・薬局が地域住民とかかりつけの関係を持つことで、普段から薬剤師が状況を把握でき、状態変化にいち早く気づき、適切な繋ぎを行うことで早期発見や家族の支援に繋ぐことができる。
- 高齢化が進展する中、薬剤師・薬局としても、これまで以上に認知症の方とその家族の支援に取り組んでいく必要があり、そのためには地域における多職種との連携が重要。
- かかりつけ薬剤師や健康サポート薬局（機能）を活用いただくことで、服薬状況の薬学的管理や服薬指導のみならず、一般用医薬品やサプリメント等の使用のアドバイスや、医師をはじめとした他職種と必要に応じて患者情報を共有し、より質の高い、生活を支える医療を提供できるとともに、本人だけでなく家族等のサポートにもつながる。

認知症の方を支えるために必要な取組②

予防に係る取組の強化

- 薬局は地域に開かれた、専門職の常駐するリソースであり、受療以前からの身近な相談場所として、地域住民の健康意識の醸成に必要な情報発信に取り組んでいる。
- 認知症予防については、一次予防（運動不足の改善、生活習慣病予防、介護予防や健康増進事業との連携）、二次予防（健康相談などをきっかけにした早期発見）のほか、三次予防（進行の予防、進行遅延）についても薬剤師・薬局の関与により効果が期待できる。

地域の専門職の活用・機能の発揮

- 薬局においては、患者や家族等からの情報、他職種からの情報等をもとに、患者の薬物治療の個別最適化を行う。飲み忘れや飲み誤りがないか、薬の紛失や受診忘れはないか等の確認を行い、医薬品の剤形、服用方法、服用回数の最適化、調剤上の工夫、管理方法の工夫等の服薬支援や服用期間中を通じたフォローアップを行う。さらにはかかりつけ医、ケアマネジャーや地域包括支援センターをはじめとした多職種・多施設と連携し、切れ目のない医療の提供を行っている。

認知症の方を支えるために必要な取組③

理解の促進、人材育成（認知症対応力向上研修等）

- 薬剤師が認知症の基本的な知識や、多職種との連携の重要性等を習得し、認知症患者への薬学的管理や支援体制構築の担い手となるよう、都道府県（指定都市）において、薬剤師の認知症対応力向上研修が実施されている。
- 薬剤師の活動をより充実させるためには、認知症対応力向上研修のフォローアップ研修や医療介護職種や他職種と合同研修や事例検討会等を継続的に行うとともに、認知症に関する様々な観点からの知見習得に努め、薬剤師・薬局としての責務を果たすことが必要。
- 薬剤師の活動をより充実させるためには、フォローアップ研修、情報提供、継続的なつながりの構築（行政、修了者同士、多職種）などが必要と考えられ、引き続きの人材育成、フォローアップ研修等の施策が重要と考えられる。

薬局・薬剤師に求められる認知症対応力と実践

予防～医療・介護までの幅広い視点と対応力



地域社会、多職種とのつながり

薬局・薬剤師が地域で実践している「気づき・つながり」の例

薬局・薬剤師は、認知症についての
様々な制度・事業、相談窓口等に
繋ぐことができます！



制度・事業

- ◆介護保険制度
- ◆生活支援サービス
- ◆チームオレンジ
- ◆成年後見制度
- ◆認知症初期集中支援チーム
- ◆日常生活自立支援事業
- ◆認知症地域支援推進員

等

薬局・薬剤師



相談窓口

- ◆若年性認知症に関する相談・支援
【若年性認知症支援コーディネーター】
【全国若年性認知症支援センター】
【若年性認知症コールセンター】
- ◆認知症介護経験者による電話相談
【公益社団法人認知症の人と家族の会】
- ◆認知症に関する制度全般の問い合わせ
【市町村の窓口】
- ◆認知症高齢者等の総合相談窓口
【地域包括支援センター】
- ◆専門医療機関による相談
【認知症疾患医療センター】

薬局（健康サポート薬局）の取り組み事例

おくすり・健康相談

薬局での掲示の他、包括支援センターを通じての告知や町内会の回覧板で案内予約制により実施



出前講座

幼稚園での講習会
テーマは要望に合わせて



健康講座

薬剤師「高血圧について」
栄養士「減塩講座」



健康フェア

脳内・血管・肌・骨年齢測定、認知症簡易テスト、健康相談（地元医師会と連携）



受診勧奨による早期治療に繋がった事例

【背景】

数年来、買い物（医薬品）や処方箋を持参する80代（女性）の方の様子に6ヶ月程の期間で異変が進行。家族に連絡して物忘れ外来に紹介、認知症初期状態の診断があり介護認定を受け早い段階でサポート体制構築が確立。

【健康サポート薬局における対応】

日中は独居のため介護支援専門から居宅訪問を薬局、訪問介護事業所、また通所介護を利用して昼間の見守りできるように情報共有と連携を行った。



薬局・薬剤師が目指す姿

これからの薬局・薬剤師が果たす役割



誕生から終末期に至る、ライフステージ全てを通じた薬剤師による
健康サポート、服用薬の一元的・継続的・全人的な管理・指導

